



▲天神山古墳の現地調査の様子。右の盛り上がった部分が後円部と推測されています。

【桂川町の前方後円墳】



丘陵です。私の推測ですが、**寿命丘陵は首長や地域の代表者を埋葬する墓山**のようなものだったのではないかと思います。

金比羅山古墳と王塚古墳の年代の差が開いたことにより、必ずしも代々の首長の墳墓だけが築造されていた訳ではない可能性も強まりました。

王塚古墳築造は

「伝統的な権威への回帰」か

——金比羅山古墳以降、王塚古墳までの桂川の前方後円墳築造の流れは？

調査の結果から、4～5世紀頃の桂川の前方後円墳の築造の流れは、比較的緩やかだったと考えられます。

宮ノ上古墳（寿命・全長37m）、みやのうへ大平古墳（寿命・全長35m）、ホーケントウ古墳（飯塚市平塚・全長44m）などの前方後円墳は、この頃に築造されたと思われる。

この期間、80m級の古墳は桂川に見られず、有力な首長の墳墓は別の地域に築造されていた可能性もあります。飯塚市の山の神古墳（※）などは年代的に矛盾しません。

（※飯塚市枝国で発見された全長80m、5世紀末頃の前方後円墳）

ところが、6世紀中頃、寿命丘陵の流れに、突然、**王塚古墳が築造**されます。それもただの前方後円墳ではなく、全長86mという規模と全国でも屈指の装飾壁画を持つという第一級の古墳です。

王塚古墳の築造形式を見ると、明らかに意識してあの場所に築造されているのですが、これには、「**伝統的な権威への回帰**」があったのではないかと、私は考えています。

かつての首長らが眠る寿命丘陵の流れに80m級の王塚古墳を築造することによって、この地域の代表者としての正統性を主張する狙いが、王塚古墳を築造した首長にはあったのではないのでしょうか。

規模は王塚古墳級？ 天神山古墳を調査中

——桂川町には他に大きな前方後円墳として**天神山古墳（豆田）**があります。

現在、私たちの研究室では、天神山古墳の調査を進めています。この古墳も保存状態が非常に良く、周囲の状態もほとんど当時のままのようです。全長68mと規模も大きく、周溝や盛土の状況から、かなり労力をかけて築造された古墳であると考えられます。

——王塚古墳に匹敵する可能性も？

天神山古墳は、この地域で最後となる前方後円墳でもあり、かなりの有力者の墳墓であると思われます。王塚古墳のように、**内部に石室がある可能性**もあります。

今後は、測量した上で他の古墳との比較などを行い、発掘調査により規模や形態、築造時期、築造技術について明らかにしたいと考えています。

桂川町には大小多くの古墳があり、当時の地域社会を知る上で全国的にも有数の極めて貴重な地域です。今後調査を進めていき、桂川町の古墳の魅力をお伝えできればと思います。

王塚古墳特別公開

たけはら 竹原古墳（宮若市）、おきで 沖出古墳（嘉麻市）など遠賀川流域古墳公開も同時開催。

【日時】10月17日(土)、10月18日(日)
9時30分～16時

【同時開催】古代の謎フェスティバル2015

【問合先】社会教育課 文化財振興係
（王塚装飾古墳館内）

☎65・2900

HP <http://www.town.keisen.fukuoka.jp/ouzuka/>